

片瀬地区ウォーキングのみどころ

さいぎょう もど まつ

西行の戻り松 西行法師が東国をめぐる途中、この枝ぶりの見事さに京の都恋しくなり、思わず見返って枝を西にねじまげて立ち去ったと伝えられている。

じょうりゅうじ

常立寺 創立は永正年間（1504～21）頃。この地は竜の口刑場で死罪になった人たちを埋葬して塚を築き供養した処といわれている。文永の役（1274）の翌年、国書を携え来日した元の使者が鎌倉に連行され打ち首の刑にあつたが、その5人を供養した五輪塔「元使塚」がある。

ほんれんじ

本蓮寺 推古3年（595）に聖徳太子の師によって開かれたと伝わる密教寺院であつたが、源頼朝により再建される、後に日蓮宗に改宗した。慶安2年（1649）に江戸幕府から朱印地七石を賜った「御朱印寺」である。

みつそうじ

密蔵寺 鎌倉時代に開山した寺。天保2年（1831）に火災にあい、長年無住になっていたが、江の島の江戸屋という旅館の主人が、良忍上人に頼み再建した。

すわじんじゃ

諏訪神社（上社・下社） 養老7年（723）に信州（長野県）の諏訪大社から勧請された。信州諏訪大社から地方へ勧請された神社で最古の神社であるともいわれている。はじめは片瀬一丁目の台地に祭られました。弘仁3年（812）下社を現地に移し又天長3年（826）上社を現在の地に移した。

せんぞうじ

泉蔵寺 本尊は不動明王。以前は鯨骨（くじらっぼね）にあり、通称「やとの寺」と呼ばれた。嘉禄年間（1225～27）、北条泰時の嫡男泰時の創建といわれる。新田義貞の鎌倉攻めに際し兵火に焼かれ、現地に再建された。相模国準四国八十八箇所のうち四十三番の弘法大師石像がある。

岩屋不動尊 石籠山不動尊。岩壁に掘ったやぐらの暗がりの中、背に火災を配し眼をらんと輝かせた不動像が祀られている。洞窟は、弘法大師が修行のために掘ったといわれ、元禄8年（1695）、快祐上人が稻荷大明神を勧請して不動像を安置した。快祐は片瀬に生まれ、延享元年（1744）に八十二歳で生きたまま岩屋に入って成仏した。

うまくらいばし

馬喰橋 昔、源頼朝が橋の無い川に馬の鞍をかけて渡ったので馬鞍橋、また石が2～3枚渡してある溝川があつて、そこへ来ると馬がいなないてすぐ死んでしまうという伝説から馬殺橋とも呼ばれた。他にも複数の言い伝えがある。

いっぺんしょうにんじぞうどうあと

一遍上人地蔵堂跡 鎌倉時代の弘安5年（1282）、一遍上人（時宗の創始者）が鎌倉へ行こうとしたが、幕府によって制止され、鎌倉入りをあきらめ片瀬で布教したのがこの地で、一遍の踊り場とも呼ばれている。

えのしまじんじゃ
江島神社 祭神奥津宮-多紀里毘売命、中津宮-市寸島比売命、辺津宮-田寸津比売命、御窟-天照皇

おおかみ すさのおのみこと ひなかつさんじよしん
大神、須佐之男命、宗像三女神、境内八坂神社、秋葉稻荷社、創立欽明天皇 13 年（552）、例祭日四月初巳の日、「江島縁起」によると欽明 13 年（552）の創建とあり、「吾妻鏡」では寿永元年（1182）源頼朝が祈願のために文覚上人をして勧請したとする。社殿は 3 つに分かれている。鎌倉時代以降、鎌倉将軍隊、北条氏、後北条氏、徳川家等の信仰があつたが、江戸時代以降になると弁才天信仰の流行により庶民の神社としての色彩を強め、現在、海運、漁業、交通のほか、幸福・財産を招き、伎芸上達の神として信仰されている。

江の島弁天橋 江の島へ渡る道路橋と人道橋で、道路橋は東京オリンピックのヨット競技のために江の島港が建設されたことに伴って架けられた。橋長 324m。

青銅の鳥居 江の島弁財天信仰の象徴である青銅の鳥居が創建されたのは延享 4 年（1747）。現在のものは文政 4 年（1821）に再建されたもので、約 200 年の間、潮風をうけながらその姿をとどめている。両柱には再建に協力した寄進者の名前が記され、信仰の厚さを物語っている。鳥居をくぐると江島神社へと続く参道で、土産物屋がずらりと並んでいる。

岩本楼 岩本院跡。岩本院は、弁天社の本宮をあずかっていた一山の総別当。京都仁和寺の末寺であった。

たつのがおか
龍野ヶ岡（恋人の丘） 江の島岩屋のほぼ真上に位置する。「恋人の丘」に設けられた龍恋の鐘は、江の島に残る「天女と五頭龍」の恋物語にちなんで造られたもので、その伝説にあやかろうと多くの若者やカップルが訪れて鐘を鳴らす。また、鐘の下のフェンスには恋人達によってかけられた南京錠が多数。眺望もすばらしく、晴れた日には伊豆大島が望める。

参考資料：藤沢市商店会連合会発行 地域ふれあい推進事業「わが街再発見 片瀬絵図」

藤沢市教育委員会発行「藤沢市文化財ハイキングコース」

藤沢市文書館発行「わがまちのあゆみ」（昭和 59 年 10 月発行）

神奈川県ホームページ

藤沢市観光課・公益社団法人藤沢市観光協会ホームページ「いつでもおいでよ！藤沢市・湘南江の島」